



発掘調査当時の様子

中尾地下式横穴墓群は、鹿屋市吾平町上名にあり、今から約1500年前の古墳時代の遺跡です。象嵌装大刀は出土した土器などから6世紀末頃のもものとされて、中央政権では聖徳太子が推古天皇の摂政となり活躍している時代です。

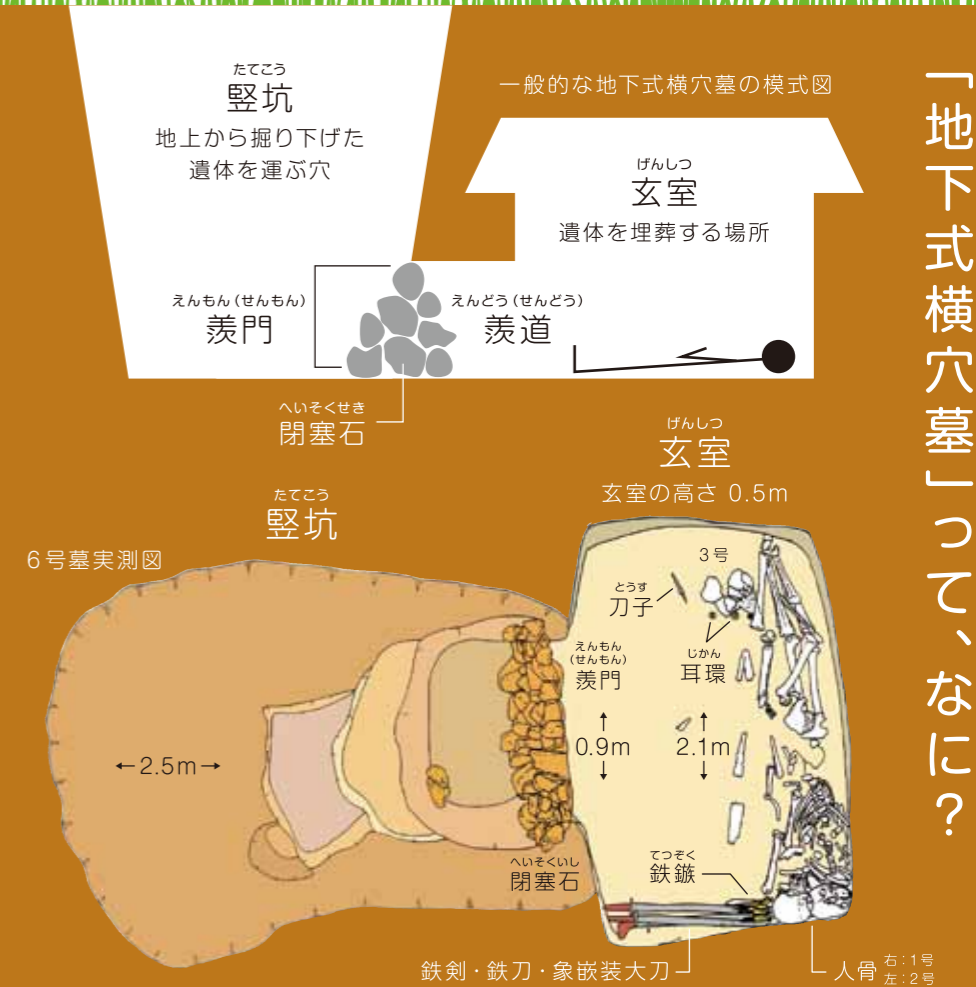
# 中尾地下式横穴墓群

象嵌装大刀が発見された、注目の遺跡！



# 地下式横穴墓群

中尾地下式横穴墓の6号墓から出土した象嵌装大刀や鉄剣、鉄鏃（てつぞく）、耳環（じかん）（耳に付けるアクセサリー）などは「象嵌装大刀外中尾6号地下式横穴墓出土金属器」として鹿屋市の指定文化財となっています。



中尾地下式横穴墓群で6番目に発見された6号墓では、最初に1体埋葬したあと2回追加で埋葬したことが豎坑部分の土の堆積状況などからわかっています。玄室内では、人骨が発見されることもあり、中尾地下式横穴墓群では合計7体の人骨が見つっています。その内1体は残存状況がよく、男性で身長159.8cmであったことがわかっています。



「地下式横穴墓」って、なに？